

論各科学外概大

中 卷

東京大学名誉教授

医学博士 大 槻 菊 男 編 著

株式会社
文 光 堂
東 京

大槻外科学各論

中 卷

東京大学名誉教授

医学博士 大 槻 菊 男 編 著

腹部の外科

株式会社
文 光 堂

1956年1月20日發行

大槻菊男編著：大槻外科學各論—中卷

☆

株式會社 文 光 堂

東京都文京區本富士町 2. 電話小石川(92) 2707・1347

振替口座 東京 578

☆

研究社印刷株式會社印刷. 仲村製本所製本

☆

定 價 ㄖ 2,600.

Printed in Japan

序

私は第二次世界大戦すぎまで、永い間東京大學で外科學の教育にたずさわっておったが、その頃は外科學參考書は主として歐米の書が用いられておった。勿論幾種かの邦文教科書はあったが、不斷の醫學の進歩に相應じて、次々に良書が現われることを冀うておった。

私が昭和廿三年停年退職する頃、余の教室在職の諸君が私の平素の望を忖度して、外科學教科書の著作を企て、私がそれを監修することになった。東京大學第一外科教室に保存されてある臨床資料を主として之に收録して、我國での資料の一部として、永く後に伝え、修學する人々に供したいと希ったことも、この企ての主な理由の一つである。

今次世界大戦の後、抗生物質、麻酔、輸血等に關する科學が飛躍的に進歩して、その結果外科學は一大革命に突入した。そして今尙その急速な進歩をつづけており、將來も發展して止まないであろう。

執筆者は私と共に教室にあつて、外科學の研究、教育、診療に傾到した人々であり、篤學にして經驗に富み、新進氣鋭、よくこの急激な外科學の改進に善處して來た人々である。本書は専らこれ等の諸君の努力によってできたのであるが、また教室關係の凡ての諸君の助力にまつところが多い。私としては誠に感慨無量、感謝の念を禁じ得ない。

尙教室に直接關係のない方々で、東邦女子醫科大學解剖學教授森於菟博士、東京大學病理學教室平福一郎助教授、同じく大津正一講師、元國立東京第一病院整形外科醫長堤直溫博士の多大の御援助を銘記して深い感謝の意を表する。

執筆者諸君は今後も日進月歩の外科學に全力を傾到して進むべき星霜に富む學者であつて、自ら擔當した部門に就ては、特に注意を集中して進歩におくれないように、適補改訂の實をあぐる筈である。かくして本書は常に斬新な外科學を載せて、讀者の要望に應えることができることを所冀しておる。

本書の冀うところは學生やインターンの學修に良い參考書でありたいこと、及び外科初學者、更に外科専門の醫師にも現在の外科學を知るために役立ちたいことであるので、勿論理解に必要な歴史や理論は制限しないが、徒らに理論に走らないように、

なるべく簡略にという方針のもとに、各執筆者は各々信するところに従って、自由に記述をすゝめたのであるから、必ずしも全巻を通じての劃一性はない。

挿入寫眞は主として東京大學第一外科學教室のものをを用いたが、泌尿器部門には新潟大學泌尿器科教室のもの、整形外科部門には國立東京第一病院のもの、組織標本は東京大學病理學教室のものが多く載せられてある。尙他より引用したものはその出所を明記してある。

尙本書出版については、文光堂主淺井忠晴氏が學門に對する深い理解を以て努力されたことを記して謝意を表する。

昭和31年1月

大 槻 菊 男

目次

I. 腹 壁 ・ 腹 膜

濱 口 榮 祐

腹 壁

腹壁の局所解剖	4
各部の名稱	4
1. 上腹部	4
2. 中腹部	5
3. 下腹部	5
腹壁の筋肉	5
腹壁の筋膜	5
腹壁の血管	6
腹壁のリンパ系	7
腹壁の神経支配	7
腹壁の先天性疾患	7
先天性腹筋欠損	7
腹直筋離開	8
腹壁の損傷	8
開放性損傷	8
皮下損傷	8
腹壁の炎症	6
急性炎症	9
丹毒, 皮下蜂窩織炎, 癰, ヨウ	9
急性筋炎	9
前膀胱膿瘍	9
手術後の進行性皮膚壊疽	10
慢性炎症	10
1. 結核症	11
2. 放線状菌症	11
3. シュロップエル腫瘍	12
腹壁の腫瘍	12
良性腫瘍	12
1. ケロイド	12
2. 脂肪腫	12
3. 類線維腫, デスモイド	13
悪性腫瘍	13
癌 腫	13
肉 腫	14

臍

臍の發生學と解剖	15
1. 臍動脈	16
2. 臍靜脈	16
3. 臍腸間膜管(卵黄管)	16
4. 尿管	16
臍の先天性疾患	17
A. 卵黄管の閉鎖不全に基因する疾患	17
1. 完全臍瘻	17
2. 不完全臍瘻	17
3. 卵黄管囊腫	17
B. 尿管の閉鎖不全に基因する疾患	18
1. 尿管瘻	18
2. 尿管囊腫	18
C. 臍帶ヘルニア	19
臍ヘルニア	19
臍の炎症	19
臍の炎症	19
後天性臍瘻	20
臍の腫瘍	20
良性腫瘍	20
悪性腫瘍	20

腹 膜

腹膜の局所解剖	21
腹腔各部の名稱	21
1. 上腹腔	23
2. 左右結腸外側腔	23
3. 下腹腔	23
腹腔の内壓	23
腹腔内の血管	24
腹膜の生理および病態生理	24
血 行	24
腹 痛	24
腹痛の種類	24

2 目 次

腹膜の機能	26
1. 吸 收	26
2. 濾出および滲出	27
3. 癒 着	27
腹膜の損傷	27
腹膜の皮下損傷	27
1. 腹膜のみの損傷	27
2. 腹腔内の血管損傷	28
3. 腹部内臓の損傷	28
腹膜腔の開放性損傷	28
腹 膜 炎	29
腹膜炎の種類	29
1. 臨床経過による分類	29
2. 範囲による分類	29
3. 原因による分類	29
4. 成因による分類	29
5. 細菌の種類による分類	30
6. 滲出液の種類による分類	30
7. 腹膜に原發したか否かによる分類	30
急性細菌性腹膜炎, 急性汎發性腹膜炎	30
定 義	30
原 因	31
病理解剖	32
病態生理	32
症 狀	34
経過および末期症状	36
診 斷	37
鑑別診断	37
治 療	38
手術不能の急性細菌性腹膜炎の治療法	44
合併症	44
急性細菌性腹膜炎の種類	45
急性限局性腹膜炎	52
定 義	52
原 因	52
症 狀	53
種 類	53
慢性腹膜炎	57
1. 結核性腹膜炎	57
2. 非特異性慢性腹膜炎	59
腸間膜リンパ節の炎症	61
急性腸間膜リンパ節炎	61

結核性リンパ節炎	61
腹膜, 腸間膜および後腹膜腔の腫瘍	62
良性腫瘍	62
悪性腫瘍	62
1. 癌性腹膜炎	62
2. 腹膜偽粘液腫	63
3. リンパ肉腫	64
4. リンパ肉芽腫症	64
5. ゼミノームの後腹膜リンパ節轉移	65
奇 形 腫	65
大 網	66
解剖, 生理	66
炎 症	66
腫 瘍	67
捻 轉	68
腹 水	68
原 因	68
症 狀	69
手術的療法	69
開 腹 術	71
手術前準備	71
患者の全身状態	71
強心的處置	71
肺合併症	71
血液所見	72
脱水状態	72
肝機能の検査	72
口腔の清掃	72
食 事	72
排 尿	72
手術野の消毒	72
麻 醉	73
手術手技	73
切開法	73
I. 縦切開	73
II. 斜切開	74
III. 横切開	75
手術後療法	76
患者の體位と安靜	76
榮 養	76
疼 痛	77
腹壁創の破裂	77

II. 胃・十二指腸

佐分利六郎

胃・十二指腸の基礎的知識

胃の基礎的知識	80
解剖	80
生理	83
胃液の分泌と作用	84
胃の運動	85
胃の感覚	86
診断法	86
1. 胃液検査	87
2. 胃鏡検査	90
3. 胃寫眞	90
4. レ線検査	90
5. 大便検査	91
6. その他の検査	91
胃内の細菌	92
十二指腸の基礎的知識	92
解剖	92
上部	93
下行部	93
下部	93
機能	94

胃・十二指腸の外科的疾患

胃の外科的疾患	95
胃の先天性異常	95
肥厚性幽門狭窄, 乳兒幽門痙攣	95
胃憩室	96
胃下垂症	97
胃擴張	98
胃軸轉症	98
腸間膜動脈性十二指腸閉塞症	99
胃損傷	99
胃内異物	100
胃炎	100
1. 急性胃炎または胃カタル	100
2. 急性腐蝕性胃炎	100
3. 急性胃蜂窩織炎	101
4. 胃ガス蜂窩織炎	101
5. 胃壁硬化症	101

6. 慢性胃炎	101
胃癌	104
病理	104
症状	110
診断	113
鑑別診断	115
経過	118
治療	119
療後と再發	121
その他の胃腫瘍	123
1. 良性腫瘍	123
2. 悪性腫瘍	123
十二指腸の外科的疾患	125
十二指腸の先天性異常	125
先天性十二指腸閉塞	125
移動十二指腸	126
十二指腸憩室	126
十二指腸の内容物滯溜を示す疾患	127
急性十二指腸狭窄	127
慢性十二指腸狭窄症	128
十二指腸瘻	128
内十二指腸瘻	128
外十二指腸瘻	128
十二指腸異物	129
十二指腸腫瘍	129

胃・十二指腸潰瘍

胃潰瘍	130
分類	130
1. 急性胃潰瘍	130
2. 慢性胃潰瘍	130
病理	130
發生部位	130
種類	130
悪性變化	132
成因	132
1. 外傷説	132
2. 血管障害説	133
3. 神経説	133
4. 胃炎説	133

5. その他の説	133
6. 胃酸要因	133
7. その他の特殊な胃潰瘍發生原因	133
症 状	134
自覺的症狀	134
他覺的所見	134
診断上重要な臨床検査	135
1. 胃液検査	135
2. 大便検査	135
3. レ線検査	135
4. 胃鏡検査	140
5. 胃粘膜撮影法	140
胃潰瘍の臨床的経過	141
十二指腸潰瘍	142
病 理	142
成 因	142
症 状	143
自覺的症狀	144
他覺的症狀	144
診断上重要な臨床検査 }	144
1. 胃液検査	144
2. 大便検査	144
3. レ線検査	144
臨床的経過	148
胃・十二指腸潰瘍の外科的合併症とそ の治療	149
A. 狭 窄	149
B. 出 血	150
C. 穿 孔	150
D. 被覆穿孔その他	153
胼胝性潰瘍および穿通性潰瘍	154
E. 潰瘍の癌性變化	154
診断および鑑別診断	155
豫後および手術の適應	156
治 療	157
保存的療法	157
1. 精神のおよび肉體的安靜	157
2. 食 事	157
3. 薬 物	158

外科的療法	159
その他の胃の潰瘍性疾患	160
胃・十二指腸結核	160
胃・十二指腸梅毒	160
放線状菌症および脾脱疽	160
好酸球肉芽腫	160

胃・十二指腸出血

處 置	162
1. 應急處置	162
2. 保存的療法	162
豫後と手術の適應	163
手 術	164

胃・十二指腸の手術

胃切除術	165
A. ビルロート第 I 法	166
B. ビルロート第 II 法	166
C. 曠置的胃切除術	173
D. 姑息的胃切除術	174
E. 管状胃切除術	174
F. その他の胃切除	174
G. 幽門曠置術	174
その他の胃・十二指腸の手術	175
胃腸吻合術	175
1. Wölfler 法, 結腸前胃壁胃・空腸吻合術	175
2. Hacker 法, 結腸後胃後壁胃・空腸吻合 術	177
3. その他の吻合術	177
迷走神経切断術	177
胃全摘出術	179
胃・十二指腸切開術	179
胃瘻造設術	180
胃切除前後の問題	181
術前處置	181
術中處置	182
術後處置	182
術後合併症	182
胃切除後障害	183

III. 小 腸 ・ 大 腸

佐 分 利 六 郎

總 論

發 生	188
解 剖	188
小 腸	188
大 腸	191
機 能	193
分泌および吸収	193
腸運動	193
腸管の知覚	194
診 斷 法	194
1. 直腸鏡検査	195
2. 大便の検査	195
3. 尿の検査	195
4. 血液の検査	195
5. レ線検査	195
腸管手術に必要な事項	197
腸管内容除去	197
術後腸管蠕動亢進法	197
腸蠕動抑制法	198
腸管消毒および殺菌法	198

各 論

小腸外科各論	200
先天性疾患	200
先天性腸管狭窄または閉鎖	200
先天性腸管重複形式	200
メッケル憩室	201
腸管囊腫	201
腸管下垂症	202
腸管損傷	202
腸内異物	203
腸管寄生虫症	204
1. 扁虫類	204
2. 線虫類	205
蛔 虫 症	206
炎症性疾患	206
1. 非特異性炎症	206
2. 特異性炎症	209
腸 瘻	211

1. 外腸瘻	211
2. 内腸瘻	212
小腸の腫瘍	213
1. 良性腫瘍	213
2. 腸管リンパ肉芽腫症	213
3. 小腸カルチノイド	214
4. 悪性腫瘍	215
腸管囊腫様氣腫	216
單純性圓形腸潰瘍	219
腸間膜血管血栓および塞栓	219
原 因	219
治 療	220
腹部紫斑病	220
小腸の手術	221
1. 腸穿刺	221
2. 腸切開術	221
3. 腸瘻造設術	222
4. 腸吻合術	222
5. 腸瘻置術	222
6. 腸切除術	223
廣範圍小腸切除	223
大腸の外科	226
發育および位置の異常	226
1. 内臓逆位症	226
2. 胎生期内臓回轉不全	227
3. 總腸間膜症	227
4. 大腸下垂症	228
5. 移動盲腸	228
巨大結腸症または先天性特發性 大腸擴張症	230
1. 一次性特發性巨大結腸	230
2. 二次性巨大結腸症	230
腸管軸轉症	232
大腸損傷	232
大腸内異物	232
1. 糞 石	233
2. 植物性食物塊, 毛髮塊	233
3. 糞 瘤	233
大腸腹(網)膜垂の疾患	233

糞 瘻	234
人工肛門	237
大腸の炎症性疾患	239
1. 非特異性炎症	239
2. 特異性炎症	241
憩室および憩室炎	244
大腸の良性腫瘍	245
1. 腺 腫	245
2. 乳頭腫	246
3. 大腸茸腫症	246
4. 偽茸腫	247

大 腸 癌	247
腸管癒着障害	253
便 秘 症	255
機能的または常習性便秘症	255
症候的便秘症	255
大腸の手術	256
1. 大腸瘻造設術	257
2. 大腸吻合	259
3. 曠置術	260
4. 大腸切除	261
5. 大腸切除術後の處置	264

IV. 虫 垂

佐 分 利 六 郎

總 論

解 剖	266
組織學的構造	267
虫垂内腔	267
移動性	267
血 行	267
神經支配	268
虫垂根部の盲腸への移行	268
虫垂根部の位置	268
虫垂の位置	269
機 能	270
虫垂のレ線検査	270

各 論

急性虫垂炎	271
虫垂の分類	271
單純性虫垂炎	271
破壊性虫垂炎	272
虫垂炎の病理解剖	273
虫垂の變化	273
腹膜の變化	274
虫垂炎の結果として虫垂に残る變化	275
原因および誘因	276
感染の原因となる細菌	276
常住の細菌がいかなる條件の下に炎症を起す であろうか	276
誘 因	278
症状と経過	278

1. 前驅症状と初發症状	278
2. 早期症状	279
3. 非定型的な場合の虫垂炎症状	280
4. 虫垂炎早期以後の経過	281
合併 症	283
1. 虫垂炎性膿瘍	283
2. 瀰漫性穿孔性腹膜炎	286
3. 血管系統の合併症	286
4. 尿路の合併症	286
5. 胃腸管の合併症	286
6. 肺合併症	286
7. 腸狭窄, 腸閉塞	286
診 断	287
特殊な場合の急性虫垂炎	287
1. 婦人の虫垂炎の特殊性	287
2. 年齢と虫垂炎との關係	289
3. 虫垂炎とヘルニアの關係	290
鑑別診断	290
1. 急性の腹痛の場合	291
2. すでに腫瘍を形成している場合	291
慢性虫垂炎	295
慢性虫垂炎の症状	295
特殊な慢性虫垂炎	295
1. 線維形成性虫垂炎	295
2. 結核性虫垂炎	296
3. 虫垂放線状菌症	297
4. 虫垂梅毒	297
虫垂炎の豫後	297

虫垂炎の療法	298	後期合併症	308
手術適應	298	1. 癒着障害	308
1. 手術を行わなくてもよい場合	298	2. 腹壁瘢痕ヘルニア	308
2. 手術したほうがよい場合	299	その他の虫垂疾患	309
3. とくに、すみやかに手術すべき場合	299	虫垂重積症および虫垂軸轉症	309
4. 術者の経験により、手術を行っても行わ なくても、ともに理由があると思われる場 合	299	1. 虫垂重積症	309
保存的療法	299	2. 虫垂軸轉症	309
手術的療法	300	虫垂憩室	309
前處置	300	1. 先天性虫垂憩室	309
麻 醉	300	2. 後天性虫垂憩室	309
皮切法	300	虫垂水腫、粘液嚢腫	309
虫垂切除術	301	虫垂粘液小球形成	310
術後處置	305	腹膜偽粘液腫	310
虫垂炎の手術後合併症	306	虫垂炎と寄生虫との關係	311
早期合併症	306	1. 蟻 虫	311
1. 腹壁の化膿	306	2. 蛔 虫	311
2. 後出血	306	3. 鞭 虫	311
3. 腸 瘻	307	4. アメーバ	311
4. 斷端膿瘍	307	虫垂の腫瘍	311
5. 内腸瘻形成	307	1. カルチノイド	311
6. 肺合併症	307	2. 虫垂癌	312
7. 早期腸閉塞	308	3. 肉 腫	312
		4. その他の腫瘍	312
		〔附〕 虫垂と外傷	312

V. 直 腸 ・ 肛 門

佐 分 利 六 郎

總 論	レ線検査	323
發 生 學	各 論	
解 剖	先天性奇形	324
直腸膨大部	先天性閉鎖	324
肛門部	分 類	324
直腸周邊部	治 療	328
血 行	先天性狹窄	329
動 脈	肛門および直腸脱	329
靜 脈	1. 肛門脱, 脱肛	329
神 經	2. 肛門・直腸脱	329
機 能	3. 直腸脱	329
檢 査 法	4. 腸重積症腸管の肛門外脱出	330
肛門鏡による検査	成 因	330
直腸鏡または直腸・S 狀結腸鏡検査	症 狀	331

合併症	332	治 療	350
診断, 鑑別診断, 豫後	332	保存的療法	350
治 療	332	手術的療法	350
1. 保存的療法	332	肛門裂溝	351
2. 注射療法	332	原 因	352
3. 手術的療法	333	治 療	352
直腸の損傷	337	保存的療法	352
切創, 刺創, 裂創	337	手術的療法	352
抗 傷	337	〔附〕陰窩炎	352
直腸の皮下破裂	338	肛門および直腸の狭窄	353
銃 創	338	肛門狭窄	353
治 療	338	直腸狭窄	353
合併症とその対策	338	分 類	353
直腸内異物	339	治 療	355
直腸と肛門の炎症性および潰瘍性疾患	339	痔 核	356
特異性炎症	339	誘 因	356
1. 結 核	339	病理解剖	356
2. 放線状菌症	339	症 状	357
3. 腸チフス	340	外痔核	357
4. 赤 痢	340	内痔核	357
5. 梅 毒	340	診 断	359
6. 淋 病	341	治 療	360
7. 軟性下疳	341	保存的療法	360
8. 第四性病	341	手術的療法	362
非特異性炎症	341	肛門および直腸の腫瘍	364
1. 急性直腸炎	341	良性腫瘍	364
2. 慢性直腸炎	341	茸腫および腺腫	365
3. 直腸周囲炎	342	1. 單純性茸腫	365
痔瘻および直腸瘻	345	2. 茸腫症	366
分 類	345	直腸絨毛腫	366
病理解剖	345	直腸リンパ系の腫瘍	366
原 因	346	直腸カルチノイド	366
症 状	347	直腸, 肛門の悪性腫瘍	367
診 断	347	肛 門 癌	367
治 療	347	直腸肉腫	367
保存的療法	347	直 腸 癌	368
手術的療法	347	發生部位	368
後療法	349	癌の腸管壁外進展	369
〔附〕仙骨・尾骨瘻	349	二次性直腸癌	370
その他の肛門皮膚部の疾患	350	成 因	370
肛 門 瘻	350	症状と経過	370
間 擦 疹	350	豫 後	371
肛門痒疹	350	診 断	371

鑑別診断	372
直腸の悪性腫瘍の治療	372
切除不能患者の處置	373
手術的療法 of 適應と豫後	373
手術とその前準備	375
手術術式の種類とその適應	375

根治手術術式	376
麻酔と體位	376
1) 仙骨式	376
2) 腹仙式直腸切斷術	380
後療法と合併法	384
手術の近接成績と遠隔成績	384

VI. 腸 閉 塞 症

濱 口 榮 祐

總 論	
定 義	387
原因と種類	387
病態生理	389
鼓 腸	389
脱水状態	389
肝, 腎機能障害	389
病理解剖	390
閉塞上部腸管	390
閉塞下部腸管	390
肝	390
腎	390
副 腎	390
臨床症狀	390
初期症狀	390
腹部所見	390
全身の所見	391
晩期症狀	391
診 断	392
機械的腸閉塞症か機能的腸閉塞症か	392
單純性腸閉塞症か絞扼性腸閉塞症か	392
閉塞部位	393
レントゲン検査	394
腸挿管法, 吸引療法	396
鑑別診断	396
急性汎發性腹膜炎	396
急性限局性腹膜炎	397
急性胃腸炎	397
急性虫垂炎	397
膽石發作	397
急性脾臓壞死	398
尿路結石症	398
子宮外妊娠破裂	398

卵巣囊腫の莖軸轉	398
治 療	398
機械的腸閉塞症の治療方針	399
手術前處置	400
手 術	400
手術後療法	403
機能的腸閉塞症の治療方針	404
腸閉塞症の豫後	404
腸閉塞症の死因と死亡率	406

各 論

A. 機械的腸閉塞症	408
1. 單純性腸閉塞症	408
a. 腸管内からの閉塞	408
1) 嚥下した異物による腸閉塞症	408
2) 腸石, 糞石による腸閉塞症	408
3) 膽石による腸閉塞症	409
4) 蛔虫による腸閉塞症	409
b. 腸管壁の變化による閉塞	409
1) 先天性腸閉塞症	409
2) 癒痕性腸閉塞症	411
3) 癒着性腸閉塞症	411
4) 腸の腫瘍	414
c. 外からの壓迫	415
1) 炎症性産物による壓迫	415
2) 腸以外に發生した腫瘍による壓迫	415
3) 他臓器による壓迫	415
2. 絞扼性腸閉塞症	
または複雑性イレウス	416
1) 腸絞扼症	416
2) 腸嵌頓症	417
3) 腸軸轉症	417
4) 腸重積症	422

B. 機能的腸閉塞症	431
1. 麻痺性腸閉塞症	431
a. 腸管壁の障害によるもの	431

b. 反射性の腸麻痺	432
c. 中樞神経系の損傷または疾患	432
2. 痙攣性腸閉塞症	433

VII. ヘルニア

石 山 俊 次

總 論

定 義	438
病 理	438
發生過程	440
症 狀	441
診 斷	441
治 療	442
保存的療法	442
手術的療法	444
ヘルニア偶発症	445
1) ヘルニア炎症	446
2) ヘルニア糞蓄積症	446
3) 嵌頓ヘルニア	447
(1) 腸壁ヘルニア(腸壁嵌頓), または <i>Richter</i> ヘルニアあるいは <i>Littre</i> ヘル ニア	448
(2) 憩室ヘルニア(憩室嵌頓)	448
(3) 虫垂嵌頓	449
(4) 逆行性嵌頓	449
(5) 大網嵌頓	449
(6) 睪丸嵌頓	449
(7) 偽嵌頓	449

各 論

鼠径ヘルニア	454
解剖學的事項	454
諸 型	458
症状と診断	462
内・外鼠径ヘルニアの鑑別	464
類症鑑別	465
治 療	467
精索轉位を行う手術術式	467
<i>Bassini</i> 法	467
<i>Hackenbruch</i> 法	470
腱膜外精索轉位法, <i>Halsted</i> 法	470
<i>Brenner</i> 法	470

<i>Kirschner</i> 法	471
<i>Schmieden</i> 法	471
波多腰法	471
精索轉位を行わない手術術式	471
<i>Czerny</i> 法	471
<i>Lucas-Championnière</i> 法	472
<i>Coley-Fergusson</i> 法	473
<i>Girard-Wölfler</i> 法	473
<i>Kocher</i> 側方轉位法および重積法	473
ヘルニア根治手術各術式の適應選擇	473
膀胱上ヘルニア	474
大腿ヘルニアまたは股ヘルニア	475
解剖學的事項	475
大腿ヘルニアの諸型	478
定型的大腿ヘルニア	478
異 型	478
症 狀	479
診 斷	480
治 療	480
臍帶ヘルニアと臍ヘルニア	482
臍帶ヘルニア, 先天性臍ヘルニア	482
小兒臍ヘルニア	484
成人臍ヘルニア	485
腹壁ヘルニア	486
腹直筋離開	486
白線ヘルニア(正中腹壁ヘルニア)	486
半月狀線ヘルニア(側腹壁ヘルニア)	487
腹壁癭痕ヘルニア	487
横隔膜ヘルニア	488
定 義	488
病 理	488
症状と診断	490
治 療	490
内ヘルニア	491
定 義	491

病 理	492
症 状	493
治 療	493
骨盤ヘルニア	493
閉鎖管ヘルニア(卵圓孔ヘルニア)	493
病 理	493
症 状	494
診断と豫後	494
治 療	495
會陰ヘルニア	495

症 状	497
治 療	497
坐骨ヘルニア	497
症 状	498
治 療	498
腰ヘルニア	498
病 理	498
症 状	500
治 療	500

VIII. 肝 臓 ・ 膽 道

石 山 俊 次

肝臓および膽道の基礎知識

胎生學および解剖學の概要	502
肝臓、膽道および脾臓の發生學	502
肝臓の解剖學的事項	503
肝外膽道の解剖學的事項	507
肝外血管	510
肝動脈とその徑路	510
膽囊動・靜脈とその徑路	511
門脈とその徑路	511
リンパ系および神經支配	512
肝臓および膽道の生理と病態生理	512
肝臓生理の一般事項	512
膽汁の生理および病理	514
糖質代謝	516
脂質および類脂質代謝	516
蛋白質代謝	517
ビタミン代謝	517
解毒機能	518
排泄機能	518
肝臓と血液との病態生理學的關係	520
水分代謝および腎機能と肝臓	521
その他臟器機能と肝臓	522
膽道の生理および病理	523
肝および膽道の特殊検査法	525
レ線検査	526
肝機能検査法	527
I. 膽汁代謝機能検査	528
II. 糖質代謝試験	529
III. 蛋白代謝試験	529

IV. 脂質代謝試験	530
V. 色素排泄機能検査	530
VI. 解毒機能検査	531

肝臓および膽道の疾患

肝臓の疾患	532
肝臓の奇形	532
肝臓の損傷	533
肝臓の實質性疾患	535
肝硬變	535
肝臓の細菌性感染症	536
肝臓膿瘍	536
アメーバ性肝膿瘍または熱帶性肝膿瘍	540
肝臓の特異性炎症	542
肝放線狀菌症	542
肝梅毒	543
肝結核	543
肝臓の寄生虫性疾患	543
肝アメーバ症	543
肝包虫囊腫あるいは肝エヒノコックス囊腫	543
その他の肝臓寄生虫症	544
肝臓の腫瘍	545
良性腫瘍	545
悪性腫瘍	545
膽囊および膽管疾患	548
膽道の解剖學的異常	548
實質内膽囊	548
振子膽囊	548
膽囊莖軸轉	548

重複膽囊	548
重複膽管	549
先天性膽管閉鎖症	549
内膽瘻	549
特發性總膽管擴張症または特發性總膽管囊腫	549
肝外膽道の損傷	550
膽道の鬱滯	551
鬱滯膽囊	551
膽管内鬱滯	551
〔附〕 門脈の血行障害と肝臓血管の疾患	552
膽道の炎症	552
急性膽囊炎	552
慢性膽囊炎	554
膽石症	557

結石の種類	557
膽石の成生	559
症 状	559
合併症	561
診 断	561
治 療	564
膽道の腫瘍	576
良性腫瘍	576
悪性腫瘍	576
膽道の寄生虫症	579
膽道蛔虫症	579
膽道のジストマ肝蛭および槍状吸虫や肥大 吸虫	580
その他の寄生虫	580

IX. 脾 臓

佐 分 利 六 郎

總 論

解 剖	582
脾の構造	582
血 管	583
リンパ管系と神経	584
生 理	584
機 能	585
摘脾の影響	586
脾の機能亢進状態	587
検 査 法	587
觸 診	587
打 診	587
脾の穿刺	588
<i>Frey</i> 法	588
レ線検査	588
脾機能検査	588

各 論

奇形および位置異常	589
無脾症	589
小脾症, 副脾	589
分葉形成	589
右脾症	589
その他の位置異常	589
遊走脾および脾の莖軸轉	589

脾の損傷	590
分 類	590
開放性脾損傷	590
皮下損傷	590
病 理	590
症 状	591
治 療	591
脾の動脈瘤	592
脾臓の腫瘍	592
脾の原発性腫瘍	592
脾臓囊腫	592
眞性囊腫	592
偽囊腫	593
脾の急性炎症性疾患	594
脾臓囊腫	594
脾 腫	594
慢性感染性脾腫	595
脾の機能異常を主體とする脾・骨髓關係の 失調	597
脂質代謝異常を主體とする脾および細網内 皮系疾患	600
門脈壓亢進症または <i>Banti</i> 症候群	602
分 類	603
原 因	604
病 理	604